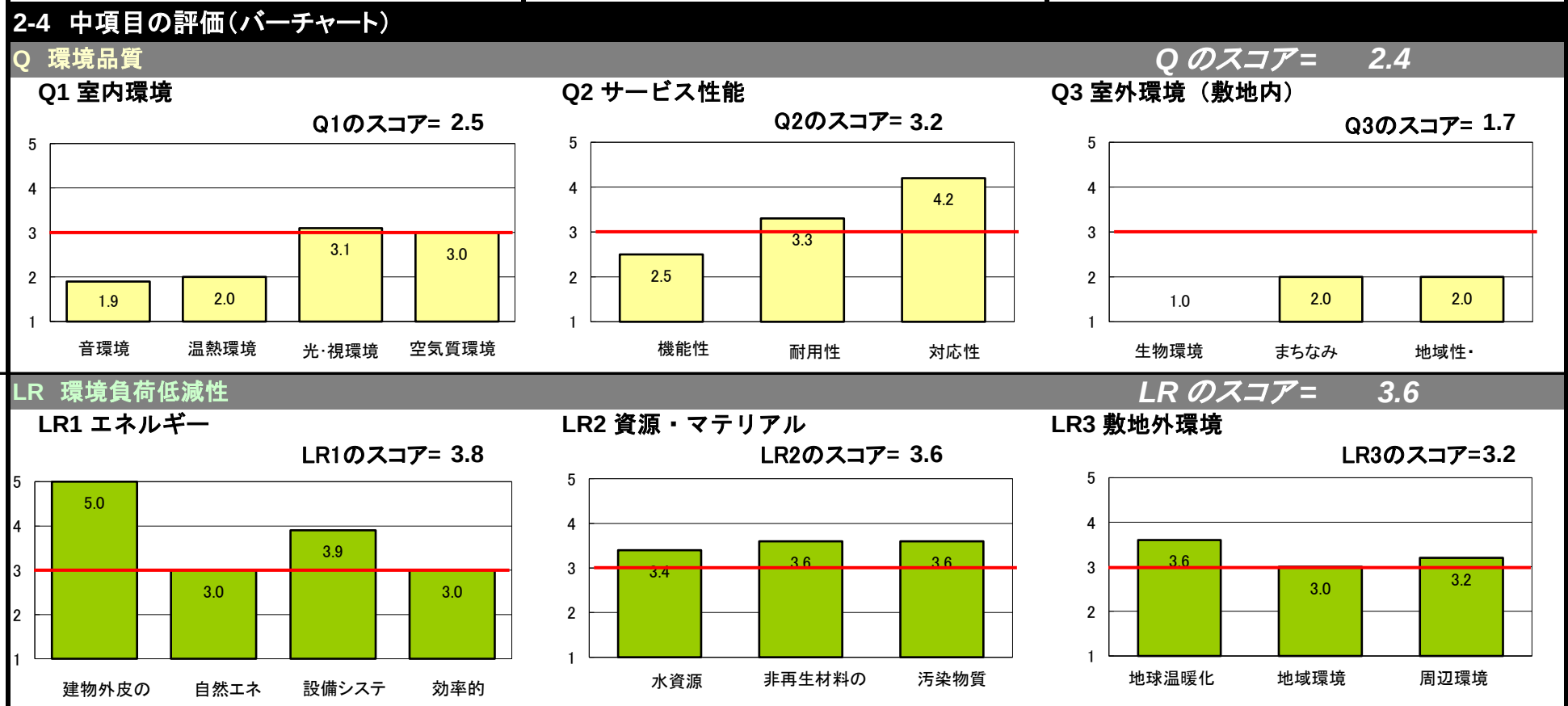
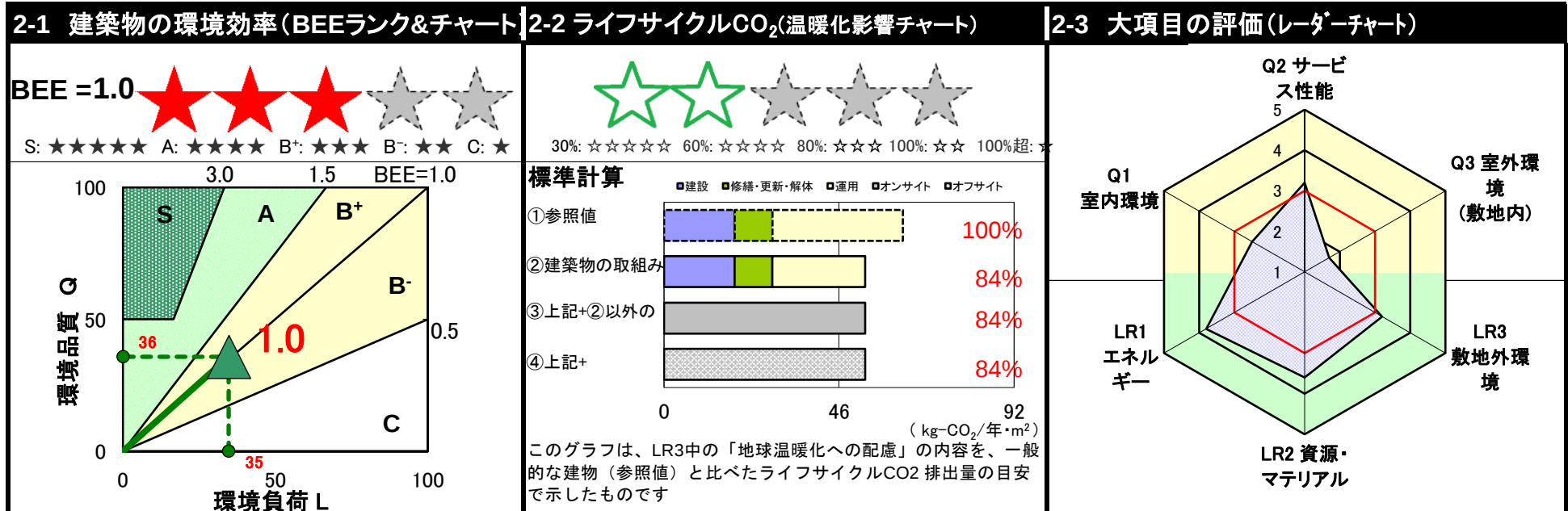


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)トールエクスプレスジャパン株式会社 名古屋支店		階数	地上3F
建設地	愛知県あま市七宝町大字伊福猿学20-1他		構造	S造
用途地域	市街化調整区域		平均居住人員	158 人
気候区分	6地域		年間使用時間	2,152 時間/年
建物用途	事務所,工場,		評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年6月 予定		評価の実施日	2021年4月28日
敷地面積	27,743 m ²		作成者	三好 星空
建築面積	6,710 m ²		確認日	2021年4月30日
延床面積	7,593 m ²		確認者	定森 淳一



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
3.6	1.0	13.8 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	<外装材に使用した地域性のある材料>
3.6	1.0	なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		建物全体・共用部分	住居・宿泊部分		住居・宿泊部分	全体
		重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.4
Q1 室内環境						0.32			-	2.5
1 音環境				0.1	1.9	0.15	-	-	-	1.9
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40		-	-	
1.2 遮音				0.4	1.4	0.40		-	-	
1 開口部遮音性能					1.0	0.60		-	-	
2 界壁遮音性能				-	2.0	0.40		-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-		-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-		-	-	
1.3 吸音				-	1.0	0.20		-	-	
2 温熱環境				0.3	2.0	0.35	-	-	-	2.0
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	-	-	-	
1 室温				3.0	3.0	0.38		-	-	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.25		-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38		-	-	
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20		-	-	
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30		-	-	
3 光・視環境				0.2	3.1	0.25	-	-	-	3.1
3.1 昼光利用				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 昼光率				3.0	3.0	0.60		-	-	
2 方位別開口					-	-		-	-	
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		-	-	
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00		-	-	
3.3 照度			事務室照度500lx以上1000lx未満	3.0	4.0	0.15		-	-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		-	-	
4 空気質環境				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
4.1 発生源対策				0.5	3.0	0.50	-	-	-	
1 化学汚染物質				3.0	3.0	1.00		-	-	
4.2 換気				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 換気量			事務室:必要換気量×1.4≦設計換気量	3.0	5.0	0.33		-	-	
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33		-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	1.0	0.33		-	-	
4.3 運用管理				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-		-	-	
2 喫煙の制御				3.0	3.0	1.00		-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30		-	-	3.2
1 機能性				0.4	2.5	0.40	-	-	-	2.5
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	1.0	0.40	-	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	1.0	0.33		-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	1.0	0.33		-	-	
3 バリアフリー計画		独自		3.0	1.0	0.33		-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 リフレッシュスペース			リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上+自動販売機の設置あり	3.0	5.0	0.33		-	-	
3 内装計画				3.0	1.0	0.33		-	-	
1.3 維持管理				0.3	4.0	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			防汚性の高い床・壁材の採用等	3.0	5.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性				0.3	3.3	0.31	-	-	-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.2	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能			空調室外機に防振ゴム/換気設備に防振吊金具を採用	3.0	4.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.8	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上り材の補修必要間隔		②	サイディング40年	-	5.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上り材の更新必要間隔				-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			ほぼ全てに垂鉛鉄板を採用/高湿系排気ダクトにガルバリウム鋼板採用	-	4.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途上位3種の2種以上にB以上を採用、Eは不使用	-	5.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備		②		3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20		-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性					0.2	4.2	0.29				4.2
3.1 空間のゆとり			②	事務所:3.45m、工場:6.35m 壁長さ比率<0.1 事務所:2900N/㎡、工場:15000N/㎡	0.3	5.0	0.31				
1	階高のゆとり	-			5.0	0.60					
2	空間の形状・自由さ	3.0			5.0	0.40					
3.2 荷重のゆとり					3.0	5.0	0.31				
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38				
1	空調配管の更新性	-			3.0	0.17					
2	給排水管の更新性	3.0			3.0	0.17					
3	電気配線の更新性	3.0			3.0	0.11					
4	通信配線の更新性	3.0			3.0	0.11					
5	設備機器の更新性	3.0			3.0	0.22					
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22							
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.38					1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性							-				3.6
LR1 エネルギー						-	0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.66	3.0	5.0	0.22				5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.12				3.0
3 設備システムの高効率化				BEI _m =0.71	3.0	3.9	0.46				3.9
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00				
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50				
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価					-	-	-				
4.1 モニタリング					-	-	-				
4.2 運用管理体制					-	-	-				
LR2 資源・マテリアル						-	0.30				3.6
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15				3.4
1.1 節水				省水型便器、自動水栓、節水コマ採用	3.0	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.6	0.63				3.6
2.1 材料使用量の削減			② 独自	-	-	2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	4.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み					3.0	5.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				防水プライマー	3.0	4.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.5	0.68				
1 消火剤					-	-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				押出法ポリスチレンフォーム/ODP=0、GWP=3	-	4.0	0.50				
3 冷媒					3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境						-	0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率84%	-	3.6	0.33				3.6
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25				
3 交通負荷抑制			独自	駐車駐輪場荷捌き用車両スペース、敷地内に長い車路の確保	-	5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40				
1 騒音			独自		-	3.0	1.00				
2 振動			独自		-	-	-				
3 悪臭					-	-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40				
1 風害の抑制					-	3.0	0.70				
2 砂塵の抑制					-	1.0	-				
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30				
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策				チェックリスト過半を満たす、広告物照明なし	-	5.0	0.70				
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

(仮称)トールエクスプレスジャパン株式会社 名古屋支店

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10		
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19		
③ 敷地内の緑化					1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:13.8%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア=重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	再生利用が可能な資材を多く採用し環境に配慮/更新・維持管理に優れた建物の計画
Q1 室内環境	室に適した照明の設置により視環境に配慮/室内空気質環境への配慮
Q2 サービス性能	リフレッシュスペースの確保により快適性に努めている/外壁仕上や給排水配管、ダクトに長寿命材を採用/空間の形状にゆとりを持たせ、将来の用途変更可能性に配慮している
Q3 室外環境(敷地内)	緑地の維持管理に必要な設備を設置している/敷地周りの植栽により、良好な景観を形成している/見通しの良いフェンスを設け、防犯性に配慮している/緑地の確保により地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制している
LR1 エネルギー	高効率設備の採用により省エネルギー性に努めている
LR2 資源・マテリアル	節水型水栓を採用し節水に努めている/グリーン購入法における特定調達品目やエコマーク製品を採用し、非再生性資源の利用削減に努めている/解体時の分別が容易な工法や再利用可能な部材を採用し、部材の再利用可能性工場に努めている
LR3 敷地外環境	建築物の高さ、形状、建築物間の隣棟間隔等を工夫し、風を回復させている/敷地内に長い車路を確保し周辺道との渋滞緩和に配慮している
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。